



だより



R8.4.23 Vol.3

集団規律

1,2年生が体育の学習を進めていました。列を作って、上手に並び、準備運動です。個に応じた学習に取り組むことも、もちろん大切なことですが、学校という場でしか学べないことがあります。それが**集団規律**です。体育学習で学ぶのは「気を付け」「休め」「回れ右」など日常生活では大人になってから使う機会はほぼないであろう動作です。しかし児童期にこの経験を積むからこそ、日本人の集団としての行動美が育まれるのだと思うのです。例えば災害時の秩序ある行動は諸外国からも称賛されますし、レジに整然と列を作って静かに待つ姿も、実は訓練の賜物だと感じます。

規律を学ぶこの時間がこれからの日本を支える文化を静かに形作っていく一つになるのだと思います。



子供と共に

昼休み、運動場で子供たちと一緒に遊んでいる学級担任の姿があります。私たち教師の仕事は、もちろん「わかりやすい授業」を進めること、「望ましい人間関係」を構築させることです。が、子供たちは先生と一緒に遊んでくれる時間が大好きです。

私のかつての教え子たちは、もう30代~40代の立派なおじさん、おばさんです。そんなおじさん、おばさんと一緒に飲む機会もたまにあり、昔話にも花が咲きます。「あの時、先生寝坊したよな?」「先生! 昼休みに遊ぶためだけに学校に来よったんやろ?」そんな授業など1ミリも関係のない話題ばかりです。もちろんいい加減な授業は校長として許しませんが(笑)子供たちの心に残る毎日にしてやりたいなと思います。頑張れ! 先生たち! 私は見守る!! (笑)

四方山話松蔭 ver. 其の三(AIやろ?)

先日、ある会合で一人の保護者の方から「校長先生! 校報『まっかげ』の巻頭言、まあまあよかったよ!」とお褒めの言葉をいただきました。(笑)「そう? まあ、心を込めて書いとるけん!」「どうせAIに書いてもらったんやろ?」「なんだとぉ!」そんな憎まれ口をたたいてくるこの保護者。実は本校での教え子で私に会うと何か言わずにはいられないようです。学校にはとても協力的でまるで専属カメラマンのように、行事の記録に尽力してくれています。良い教え子に恵まれたと大人の私は感謝しかないのですが…。(笑)

さてその雑談の中に出てきた『AI』、日進月歩という言葉がありますが、デジタル社会の進化はそれをはるかに上回るスピードです。当然、アップデートが行われる際は人間の手が入りますが、AIが扱う膨大な知識量(ビッグデータ)に一人の人間がかなうはずもありません。実際に「○○という感じの文章を□□文字以内で作成してくれ!」と入力すればあっという間にそれらしい文章が出来上がります。主述の整った、私が知らない語句や表現も織り交ぜた綺麗な文章です。事務的な文章(会則や規約など)を作成する場合は非常に重宝します。が、今、私が書いている便りの中でもエッセイ的な部分はAIにあまり頼りたくないと思っています。読み手の方に届けたいのは、綺麗な文章ではなく、私の思いや考え、心や気持ちだからです。もちろんそれらしい文章は作ってくれますが、どうも隙がないんですよね。隙だらけでは困りますが、隙があるからこそ人間としての味が出るのではないかと思います。

教育においても、知識のみを求めるのであれば、最早AIにかなう教師はいないでしょう。が、私たちが行っているのは「人間教師としての教育」です。時には心から褒め、時には叱り、人としての在り方、関わり方を様々な学習を通して子供たちに伝え、導いています。社会の隅々までデジタルが行き渡る社会となりましたが、人はアナログです。リセットはできません。その本質を見失うことなくこれからの教育を進めていきたいです。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。